

科目名	情報処理II			担当教員	川染勇人, 篠山 学		
学年	情報2年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	4
分野	専門	授業形式	講義・演習	科目番号	09I02_30170	単位区別	履修単位
学習目標	プログラミングをコンピュータによる問題解決の1つの手段として捉え、問題を分析し、問題解決のアルゴリズムを設計し、その処理手順をプログラミング言語で記述してコンピュータ処理するという一連の流れを理解するとともに、プログラミング行程の実践的技術を身につける。また、プログラムの全体像を構造的に捉え、いかに複雑なプログラムでも、順次、選択、繰り返しの三つの基本制御構造のみで記述可能なことを理解する。						
進め方	学生にとってはこれが最初の本格的なプログラミングの授業である。本授業では、まずプログラムとは何かという基本的な事項から説明する。順次新たなプログラム文法や作法を解説し、その後、実際の演習を通して理解を深めるという形態をとる。演習の結果は定期的にレポートとして提出する。プログラミング言語としてはC言語を用いる。演習はC言語と関連の深いUNIX上で行い、エディタやファイル操作などUNIXの基本的なコマンドの使用方法も学習する。加えて、随時、小テストを行い理解度を確認する。						
履修要件	特になし						
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	1. ガイダンス, プログラミングの概要(4)			プログラムとは何かを理解する D2:1			
	2. UNIXおよびC言語処理系の操作方法(4)			プログラミングの基本手順を理解する D2:1, E2:1, E3:1			
	3. 変数と型(4)			プログラムの基本構造を理解する D2:1,2			
	4. 算術演算と代入(4)			選択構造をC言語で記述することができる D2:1,2, E2:1-3, E3:1-3, E4:1,2, E5:1,2			
	5. 入出力の方法(4)			繰り返し構造をC言語で記述することができる D2:1,2, E2:1-3, E3:1-3, E4:1,2, E5:1,2			
	6. 標準関数の利用方法(4)			構造化手法によるモジュール分割の意義と方法を理解する D2:1,2, E3:1,2			
	7. 関係演算による場合分け(4)			関数の概念とその記述方法を理解する D2:1-4			
	8. 前期中間試験(2)			スコープの概念を理解する D2:1-3			
	9. 前期中間試験の返却と解説(2)			仕様に従って関数を作成することができる E3:1-3, E4:1,2, E5:1,2			
	10. 論理演算による場合分け(6)			関数の品質(4)			
	11. switch文を使った場合分け(4)			配列を使用した基本的なアルゴリズムを理解する D2:1-4, E3:1-3, E4:1,2, E5:1,2			
	12. 複雑な場合分け(6)			配列を用いた関数(4)			
	13. for文を使った繰り返し(4)			配列を引数として関数を作成できる D2:1-3			
	14. for文を使った演習(2)			後期中間試験(2)			
	15. 多重ループによる繰り返し(4)			試験問題の解答(1)			
	評価方法	定期試験70%, レポートおよび小テスト・ノート30%の比率で総合評価する。					
関連科目	情報処理I, ソフトウェア設計論						
教材	教科書: 林 晴比古 著 「新訂C言語入門シニア編」 ソフトバンク 演習書: 情報処理研究会 編 「プログラミング課題集」 森北出版						
備考	特になし						